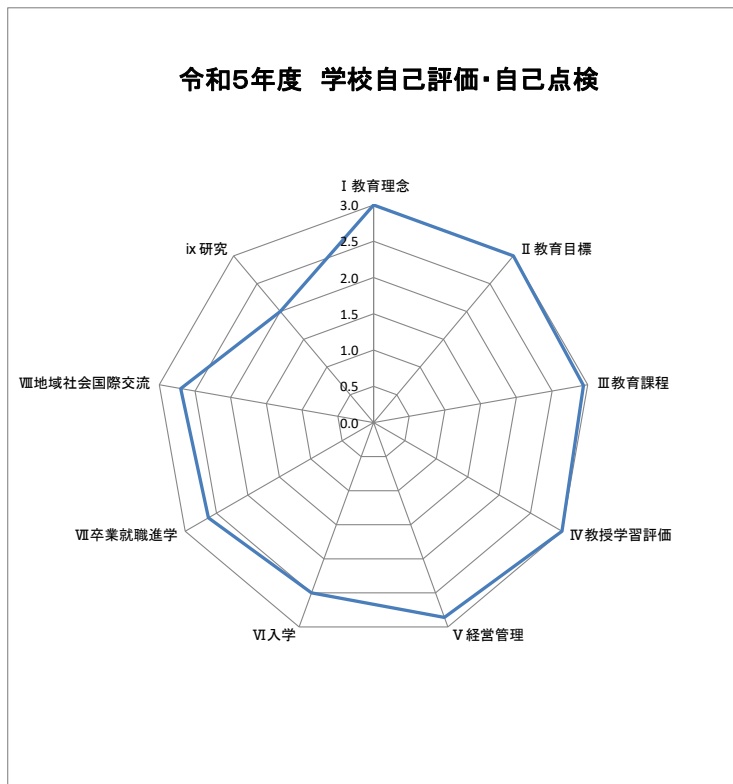


学校自己点検・自己評価

	令和5年度
I 教育理念	3.0
II 教育目標	3.0
III 教育課程	2.9
IV 教授学習評価	3.0
V 経営管理	2.9
VI 入学	2.5
VII 卒業就職進学	2.6
VIII 地域社会国際交流	2.7
ix 研究	2



学校自己点検・自己評価 : R5年度評価

令和4年度	
I 教育理念	農協の相互扶助の精神を受け継ぎ、理念、目的、目標、到達度など学生要覧や建学の精神に示している。今後も教育理念は変わらず運用していく。
II 教育目標	本年より新カリキュラムが開始された。全学年の教育目標の評価を実施した。ほぼ8割程度が目標を達成している。今後は、新カリキュラムが3年目を迎え、全学年が新カリキュラムにて学習していくため、その成果を検討する。
III 教育課程・ 経営	カリキュラム進捗計画に沿って進行できている。学生にも進捗がわかるように、学生要覧、シラバスは学生個人に配布している。教員の教育・研究活動の充実については、授業や実習業務が重なっていることより、教員間で協力し時間確保に努めている。また、実習施設の指導力向上を図るため、教員と臨地指導者との合同会議を実施し、教育環境を整えている。臨地指導者の各研修紹介や参加協力を継続している。
IV 教授学習評価過程	授業内容や展開プロセスなどの評価・検討は日々の業務、カンファレンス、カリキュラム検討会で行っている。学生が学習をわかる喜びへと発展していける工夫を検討している。また、思考を求める授業や実習においては、新カリキュラムよりルーブリック評価を取り入れた。教員は各研修会に参加し、教授内容・授業方法についての研鑽に努め、改善を図っている。
V 経営管理	専任教員の確保は、規程数(8人以上)は満たしている。実習と学内指導の兼務型であるため、ソフト面の充実のためにも人員確保をし教育体制を整え、業務改善を検討している。また、新校舎移転のため、現在は旧校舎の安全を確保するために日々修繕を実施している。
VI 入学	今後18歳人口は減少していく。静岡県西部地区の減少は緩やかではあるが、危機感をもって対応を考えていきたい。年々受験者数が減少傾向にあり、令和5年度の入学者数は定員に満たなかった。次年度は入試日程及び受験科目を変更し、入学者確保に努めていく。
VII 卒業就職進学	国家試験は、全国合格率を上回り、過去5年間としては100%である。また卒業時の到達状況は教育目標1と2が高値傾向を示し、自己理解・他者理解とともに、対象である生活者としての人間への興味関心を持った学びをしている。進学について助産師志望の学生が2名あったが、残念ながら受験合格に至らなかった。卒業生の成長や活動状況などは、各厚生関連病院の報告より把握している。
VIII 地域社会国際交流	看護総合IV(広域看護活動)において、国際看護を教授している。海外看護活動経験者の講義を依頼している。地域活動としては、看護師希望者の進学相談会への参加や関連病院・近隣クリニックなどの行事運営などのボランティア参加を引き続き継続的に実施していく。
ix 研究	日々の授業の評価・まとめを次に活かしていくように、新校舎では環境の整備を検討している。今後は、関連病院や施設との共同研究も視野にいれていく。